

## 学 術 活 動

### 平成16年度福島県立医科大学看護学部公開講座委員会活動報告

例年看護学部が開催している公開講座で、平成16年度は「ユニバーサルデザインと看護～安全で快適な生活への援助を目指して～」を統一テーマにあげ、3回実施した。

「ユニバーサルデザイン」については、福島県においても推進されているテーマであり、今年度の公開講座は県のテーマに呼応したものであるが、看護学部の公開講座という趣旨から、ユニバーサルデザインを看護の視点から捉え、それをサブテーマにあげた。

第1回は、福島大学行政社会学部・鈴木典夫助教授に、「ユニバーサルデザインの目指すもの」と題してご講演をお願いした。鈴木典夫先生は「福島県ユニバーサルデザイン推進会議」の会長をされておられ、ユニバーサルデザインという概念や歴史的経緯、ユニバーサルデザインの目指す社会、バリアフリーとの違いなどについて平易にお話をされた。統一テーマへの導入として、ユニバーサルデザインについての理解を深めることが出来た。

第2回は、本学部家族看護学部門・高橋信子講師に、「看護におけるユニバーサルデザインの実践例～快適でその人らしくいきいきと生活できる療養環境をめざす取り組み～」と題してご講演をお願いした。高橋信子先生は、病気のため通常な排泄姿勢がとれない女性に、臨床での豊富なご経験から、快適な排泄ができるような用具を工夫された看護師でもあり、今回の公開講座のテーマにふさわしい体験をお持ちであった。ご講演の内容は、単にご自身の体験だけではなく、ユニバーサルデザインの考えを取り入れて病院を建て、実践しているいくつか

の病院を、映像でご紹介された。そして最後に、看護分野におけるユニバーサルデザインの取り組みと今後の課題についてまとめられた。

第3回は、「障害と共に地域で暮らしていくために～精神障害者の地域生活支援の観点から～」と題して3名の演者による実践報告をしていただいた。まず始めに、南会津保健所保健師の上妻万里氏が、南会津地方において精神障害者の社会復帰施設が皆無であることなど、南会津保健所管内の実態と課題についてお話をされた。続いて、河東町社会福祉協議会職員で、前・羽金病院看護師の児島百合子氏が、精神障害者の社会復帰を支援するために訪問看護を行った経験を通して、精神障害者が地域で生活をしていくうえでの課題について報告した。最後に、社会福祉法人郡山コスモス会・地域生活支援センター施設長の石塚澄江氏が、福島県の精神保健福祉の現状と精神障害者が障害を持ちながら地域で暮らしていくために、郡山コスモス会が支援している活動を紹介された。

今年度の公開講座は、3回とも一般住民と看護職を対象にご案内したが、いずれも一般住民の方の参加が多かった。看護職にはユニバーサルデザインという言葉に馴染みがないことが講座後のアンケートからも推察された。すべての人が安全・安心して快適に生活できるような社会をめざすユニバーサルデザインの考え方は、看護の基本とも共通するものであることから、一般住民の方だけではなく、看護職の方にも関心が高まるような広報のあり方が、今後の課題として残された。

(公開講座委員会委員長・宮岡久子)

回数	開催日	演 題 名	演 者 (所属・職)	参加者
第1回	9月10日	ユニバーサルデザインの目指すもの	鈴木 典 夫 (福島大学行政社会学部助教授)	41
第2回	10月15日	看護におけるユニバーサルデザインの実践例	高 橋 信 子 (本学部家族看護学部門講師)	40
第3回	11月20日	障害と共に地域で暮らしていくために	石 塚 澄 江 (郡山コスモス会地域生活支援センター施設長) 児 島 百合子 (河東町社会福祉協議会職員) 上 妻 万 里 (南会津保健所保健師)	32